

実践報告

## 大阪観光大学図書館におけるラーニング・コモنزの活用

Optimum Utilization of a Learning Commons at Osaka University of Tourism Library

住 木 俊 之\*

SUMIKI Toshiyuki

A Learning Commons was set up in the Osaka University of Tourism Library. A Learning Commons is a space in educational institutions such as universities and libraries, where information resources such as books and other materials as well as IT equipment are readily available to support learning for students and other users. The furniture and facilities are designed in such a way that group learning can be conducted efficiently. In some cases, dedicated learning support staff may be deployed. As distinct from a traditional class where a teacher gives a lecture one-directionally, this is a space where active learning takes place, in which students are actively involved in learning, thinking and discussing. This report provides an overview of the Learning Commons in the Osaka University of Tourism Library and describes its optimum utilization.

キーワード：ラーニング・コモنز (learning commons), アクティブ・ラーニング (active learning), 大学図書館 (university library)

### 1. はじめに

大阪観光大学図書館内に、ラーニング・コモنزが設置された。ラーニング・コモنزとは、大学ならびに図書館といった教育施設において、学生ならびに利用者の学習支援を目的に、書籍や資料といった情報資源、ならびに、それらの情報資源を利用するための情報通信機器が整備され、グループによる学習を効率的に行うことができるような家具や設備が設けられた空間のことである。学習支援を行う専任の担当者を配置する場合もある。教員が一方向的に講義を行うという伝統的な授業の方式ではなく、学生が主体的に授業に参加して、考え、議論するという能動的な学習、すなわち、アクティブ・ラーニングを実践する場所を提供する。本報告は、大阪観光大学図書館内に設置されたラーニング・コモنزの概要とその活用について記したものである。

### 2. 大阪観光大学図書館ラーニング・コモنزの概要

大阪観光大学図書館は、地上4階建て・広さ1,750 m<sup>2</sup>、席数173席の小規模な大学図書館である（写真-1参照）。2015年10月1日現在、蔵書87,471冊、雑誌



写真-1 大阪観光大学図書館（中央）

\*大阪観光大学図書館



写真-2 大阪観光大学図書館ラーニング・commons



写真-3 ワークショップ（2014年11月18日）

82種類、視聴覚資料3,467点を有している。蔵書検索用コンピュータ6台、視聴覚資料閲覧用DVDプレーヤー7台の設備がある。

大阪観光大学の授業期間中においては、月曜日から金曜日の9時から18時まで開館する。地域住民の利用も可能である。

大阪観光大学図書館を担当する事務局は、専任職員1名、非常勤職員2名であるが、他の課の職員等が補助に入る場合もある。

ラーニング・commonsは、大阪観光大学図書館1階に設置された。広さ50m<sup>2</sup>、席数17席の小規模な施設であり、組み合わせの変更が可能な机、コンピュータ3台、プロジェクター1台、ホワイトボード1台の設備がある（写真-2参照）。

2014年6月16日より、教員等による授業等の利用に限定して、施設の活用を開始した。さらに、2014年9月29日より、授業以外における学生主導による利用の受付を開始した。

基本的には予約制であるが、施設の予約がない場合は、大阪観光大学図書館の職員に申告して、施設を利用することが可能である。ラーニング・commonsの予約状況は、大阪観光大学図書館の出入口ならびに大学内にある図書館用の掲示板に掲載される。

### 3. 大阪観光大学図書館ラーニング・commonsの活用

大阪観光大学ラーニング・commonsは、ゼミナール、インターンシップ、キャリアアップ講座等の少人数において実施される授業、学生の自主的な学習、学生ならびに教職員による打ち合わせ等、様々な領域における活動の場として、利用されている。ここでは、特に、「ラー

ニング・アシスタント制度の導入」、「図書館の特性を活かした学習プログラムの実施」について紹介する。

#### (1) ラーニング・アシスタント制度の導入

研究歴のある専門のスタッフを大阪観光大学図書館に置き、学生に対する学習支援を行うというラーニング・アシスタント制度を導入した。国立大学大学院博士後期課程に在籍する大阪観光大学の卒業生をラーニング・アシスタントに任命すると共に、図書館を利用した論文・レポートの執筆の指導、ならびに観光に関連するワークショップが実施された。

ワークショップは、2014年11月18日に「鉄道や航空による観光振興：いま話題の観光列車やLCCを事例として」（写真-3参照）、2014年11月28日に「日本発！世界へひろがる宿泊のカタチ：カプセルホテルの未来像を探る」（写真-4参照）、2014年12月5日に「まち歩き観光が市民の意識を変える！：世界遺産登録を控える長崎のまちから」が開催された。



写真-4 ワークショップ（2014年11月28日）

## (2) 図書館の特性を活かした学習プログラムの実施

2015年4月16日に、4回生のゼミナールの授業において、「即興ビブリオバトル」が実施された。即興ビブリオバトルとは、学生が、大阪観光大学図書館にある本を即興で紹介するというものであり、①図書館の蔵書から自身が面白いと考える本を持って来る、②順番に一人3分間で本を紹介する、③それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関する議論を2分程度行う、④全ての発表が終了した後に、どの本が一番読みたくなったかを基準に「チャンプ本」を決める、という手順で進めていく学習プログラムである(写真-5参照)。

2015年5月14日に、4回生のゼミナールの授業において、「妄想ビブリオバトル」が実施された。妄想ビブリオバトルとは、内容を詳しく知らない大阪観光大学図書館の蔵書を“妄想”で紹介するというものであり、①教員から提示された内容を詳しく知らない図書館の蔵書について、本のタイトルや著者の名前等を参考にストーリーを考え、3分間で紹介する、②それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関する議論を2分程度行う、③全ての発表が終了した後に、どのストーリーが一番読みたくなったかを基準に「チャンプ本」を決める、という手順で進めていく学習プログラムである(写真-6参照)。



写真-5 即興ビブリオバトル (2015年4月16日)



写真-6 妄想ビブリオバトル (2015年5月14日)

## 4. おわりに

大阪観光大学には、少人数のグループによる学習に適した教室が少なく、図書館内に設置されたラーニング・コモンズが、ゼミナール等の少人数による授業に利用されることが比較的多い。そのため、同一の曜日・時限に利用の希望が重なる場合もある。今後、授業の利用に関わる予約の制度について整備を進めていく必要がある。

ラーニング・コモンズの利用が、基本的には予約制であることも影響していると考えられるが、学生の自主的な学習による利用が比較的少ない。一方、図書館1階の閲覧席、ならびに円形ベンチが、学生が寛いで過ごしなが、学習する場所として利用されている傾向がある。中期的な視点において考えるならば、図書館1階全体を“ラーニング・コモンズ化”することも選択の一つである。

大阪観光大学図書館ラーニング・コモンズを地域住民による社会活動等の拠点として利用してもらえるように、地域住民に対して促していくということは、大学が地域の活性化に貢献していく良い機会となるであろう。そして、このことは、「大学図書館」という存在が、各地域において、これからどのような役割を担っていくのかということについて考える切っ掛けにもなるのである。